

創意工夫で新たな経営ステージへ

～水田農業経営の確立に向けてのアピール～

平成 1 5 年 7 月 1 7 日
全 国 稲 作 経 営 者 会 議
第 2 8 回全国稲作経営者現地研究会

21世紀の農産物貿易ルールを決めるWTO農業交渉が9月の閣僚会議に向けて進められている。農業交渉における議長提案では関税率の高い品目の大幅な関税引き下げが提案され、米について予断を許さない状況にある。そればかりではなくメキシコをはじめ世界最大の米輸出国であるタイなど数カ国と自由貿易協定（FTA）の事務レベル協議が行われている。

国内においては、米政策改革大綱が示され、米生産の構造改革が始まった。その目指すところは我々がかねて主張してきた「自らの経営判断に基づき、米の生産と販売に積極的に取り組むことで、将来にわたって“自信と誇り”を持てる稲作経営」が確立できるものと期待をしている。今後、その目標に向かって地域農業や個々の経営が発展していけるかどうかは、「地域水田農業ビジョン」の策定や関連施策の確立にかかっている。私たちは地域農業の担い手として、柔軟な発想で個性ある地域戦略が構築していけるようビジョンづくりに積極的に関与していきたいと考える。

国際対応については、圧倒的な生産力格差・内外価格差がある中での輸入拡大は、個々の経営努力ではとうてい太刀打ちできないものであり、国内生産を維持するため、しっかりした国境措置の確保が必要である。併せて、国民の理解を高め、力強い水田農業の確立に向け、農地利用の集団化と担い手への集積、「地域水田農業ビジョン」の実現に向けての助走支援が必要である。さらに水田農業の持続的な発展のためには、経営主体の確立を基礎にした地域農業の展開とこの経営が急激な価格変動に対応するための経営所得安定対策の早期実現が必要である。

本日ここに集う全国の大規模稲作経営者は、創意工夫と自己責任のもと“夢と希望”のある農業経営を確立するとともに、相互研さんにより食の安全性や環境保全・資源循環型農業への対応を通じ、地域農業の活性化と食料自給率の向上につなげ、農業に寄せる期待に応えることを誓うものである。